

秋田大学 高等教育グローバルセンターニュースレター

Vol.10
2024.3

GLOBAL CENTER FOR HIGHER EDUCATION NEWSLETTER

フライベルク工科大学の拠点を設置

2023年9月13日（水）に秋田大学にドイツ・フライベルク工科大学の拠点を設置しました。フライベルク工科大学のクラウス・ディーター・バークネヒト学長が同大学を訪問し、調印式を行いました。

調印式には、同大学から山本文雄学長、後藤猛理事（教育・国際担当）、寺境理工学研究科長、藤井国際資源学研究科長、山村理工学研究科教授が陪席しました。

冒頭、山本学長から、訪問に対して歓迎の意が示され、また、バークネヒト学長からは、長きにわたる両大学の歴史について、改めて感謝の意が示されるとともに、今後の両大学における様々な連携への期待が述べられました。

調印式に続き、同一行は、理工学研究科に設置された拠点オフィスを訪問しました。



↑ 拠点オフィスにて
(左から) 山本学長、クラウス・ディーター・バークネヒト学長



↑ 調印後の記念撮影
(後列左から) 山村教授、寺境理工学研究科長、後藤理事、藤井国際資源学研究科長、
(前列左から) クラウス・ディーター・バークネヒト学長、山本学長

秋田大学とフライベルク工科大学は2012年7月に大学間協定を締結しています。資源学を起源に持つ両大学は、環境科学や持続可能社会の構築等の教育研究活動を中心に、教員間交流、共同研究等の実績を積み重ね、このたび両大学に海外拠点を設置することとなりました。秋田大学内に、大学間協定校の拠点が設置されるのは初となり、今後はこれらの拠点を活用した更なる教育研究活動、国際交流活動の発展が期待されます。

モンゴル3高専と協定を締結

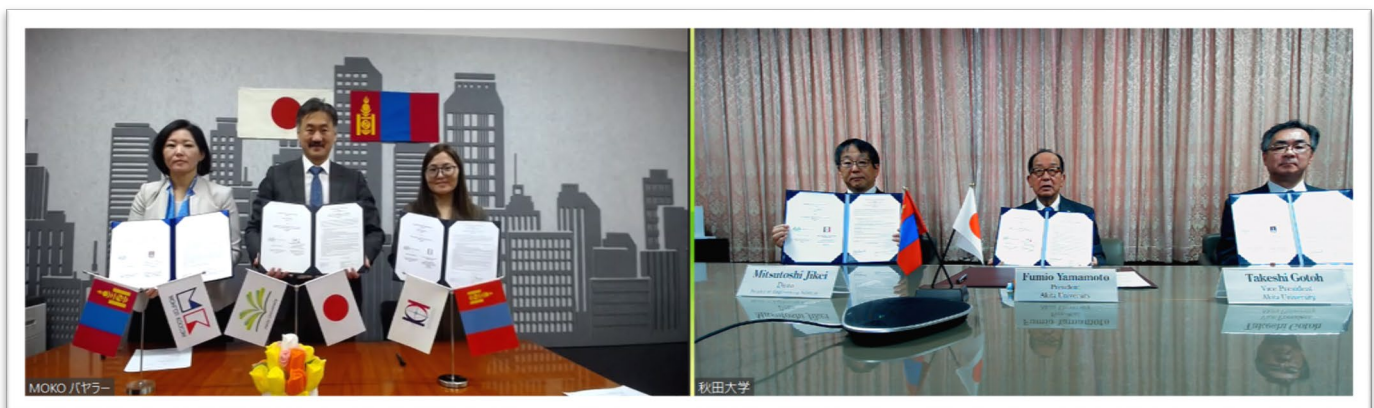
2023年12月1日（金）にモンゴル3高専との間に国際交流協定を締結しました。調印式はオンラインで行われ、秋田大学から山本文雄学長、後藤猛理事・副学長、寺境理工学研究科長が出席、モンゴル側からは、国立モンゴル科学技術大学附属高専 ドゥルマー・ダグヴァダッシュ校長、モンゴル工業科学技術大学附属高専 ムンフオチル・セルゲレン校長、新モンゴル高専 オユンジャルガル・ツマルバタル校長が出席しました。



冒頭、山本学長より、国際交流協定の締結により、学生間交流および研究者交流が推進され、秋田大学とモンゴル3高専間の連携が一層強化されることを期待する旨の挨拶がありました。引き続き、モンゴル3高専の各校長より挨拶があり、秋田大学とモンゴル3高専間の交流が活発化することへの期待とともに、優れた技術を持つ秋田大学へ優秀な卒業生を派遣し、モンゴルの豊富な地下資源を活かす高い技術力を身につけ、国の発展に貢献してほしいとの発言がありました。

調印式は、終始和やかな雰囲気で行われ、今後は学生交流、研究者交流が活発に行われることが期待されます。

モンゴル3高専との協定の締結により、秋田大学の国際交流協定は35カ国・地域 76大学・機関となりました。



↑ 今回の署名式の様子

(左から) ダグヴァダッシュ校長、セルゲレン校長、ツマルバタル校長、
寺境理工学研究科長、山本学長、後藤理事

研究者海外派遣事業（オーストラリア）

医学系研究科保健学専攻理学療法学講座 木元 稔 助教

2023年2月から12月までの10ヵ月間、メルボルン大学とロイヤル・チルドレンズ・ホスピタル（RCH）に在籍しました。実施した研究は、歩容や歩行バランスに対する整形外科的手術を受けた脳性麻痺児の帰結に関するものです。

RCHでは歩行ラボといって、整形外科的手術方法の決定と帰結評価のために、身体機能評価や3次元動作解析装置を用いた歩行計測を行います。得ら

れたデータは、医師・理学療法士・エンジニア・義肢装具士等が参加する毎週金曜日のミーティングで提示され、手術に関するディスカッションに用いられます。オーストラリアの手術後入院は日本と比べてとても短く、手術後の理学療法は手術を受けた病院ではなく患者の居住地近くで開業している小児専門の理学療法士が担うことが一般的です。そのため、歩行ラボでのミーティングには単に歩行の帰結を確認するだけでなく、リハビリテーション（リハビリ）の進捗を確かめ、今後の方針について決定する重要な役割があります。このような小児リハビリの中核を担う会議の存在は、本邦では私の知る限りありません。



日本では病院機能を持つ小児施設を中心にリハビリが展開されており、障害を持つ児とその家族をサポートする社会保障システムもオーストラリアのものとは異なっています。整形外科的手術が実施される年齢的なタイミングやその種類（筋肉だけか、骨も同時に実施するのか）にも違いがあります。子どもと家族の生活とリハビリに影響する医療的・社会的背景の違いを実感できたことは、私たちの今後の研究と教育に多大な影響を与えるものになりました。

留学体験記

🗨️ ラップランド応用科学大学

大学院理工学研究科共同サステナブル工学専攻 1年次 下野 広幹

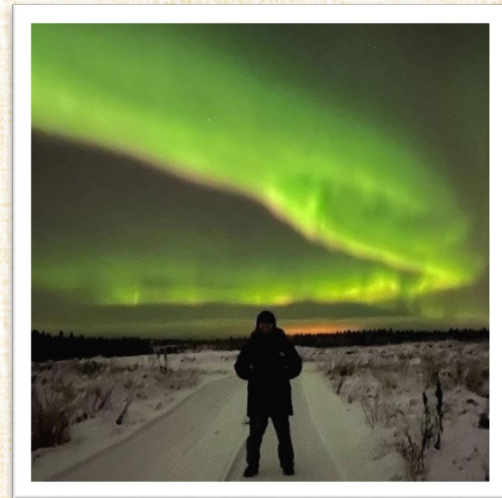
私はフィンランドのラップランド応用科学大学に約4か月間、交換留学をしました。自分の専門である理工系科目の授業のみでなく、日本とヨーロッパ諸国の労働環境や教育システムの相違点を英語でディスカッションし、発表するような授業も履修しました。日本という国をフィンランドから議論することは、とても貴重な経験になりました。

フィンランドに着いて初めに感じたことは、フィンランド人の優しさでした。国鉄を利用した際に、切符の買い方で苦戦しましたが、現地の方が優しくサポートしてくれました。フィンランド人は、日本人と同じように謙虚でシャイと聞いていましたが、実際に会ってみると社交的であり、その性格に惹かれました。

大学内には、日本人が1人もいなかったこともあり自分の英語力を高めるには最適な環境でした。初めの2、3ヶ月は聞き取ることで精一杯で、何度も挫折しました。

しかし会話をする手段はジェスチャーや表情も大切な要因だと気づくことができたときから、留学生活を楽しめるようになりました。

留学終えて得た沢山の人との出会いは、私の人生の考え方に大きな影響を与えてくれたと思います。今回の留学での経験を糧にして、これからの研究活動に励んでいきたいと思っています。



第三の故郷を見つける農家民泊2023

2023年10月21日（土）～22日（日）に「第三の故郷を見つける農家民泊2023」が実施されました。本事業は秋田地域留学生等交流推進会議（事務局：秋田大学国際課）が主催し、秋田大学、国際教養大学、秋田県立大学、ノースアジア大学、公立美術大学、秋田工業高等専門学校から留学生26名・日本人学生9名が参加しました。



特別聴講学生 Tsogtsaran Bilguun ツォグトサラン ビルグーン

It began with a sunrise and ended with a sunset. The farmstay was a two-day, one-night event that gathered students from different nations and disparate universities. Each team was unique, with contrasting perspectives and stories. And yet, I believe we all came back with a singular impression of the Japanese farmstay and its importance for expanding our view on the local farm life. At first, we arrived at our host family. Greeted with a gentle smile, our minds were at ease and ready for the adventure. Even though the weather wasn't favorable that day, we did our best to help our host parents. Peeling adzuki beans was no easy task. Then the night gathered and we were welcomed to dine in together. On the morning of the second day, we woke up to the flavorful aroma of a breakfast, prepared with love and care. That was my first time trying nattō and sleeping on a tatami mat. Then all of the teams shared a lunch together, and conveyed our thoughts and experiences and took a group photo. I am honored to say that this journey allowed us to experience Japanese hospitality, humility and their welcoming embrace.

日本語・日本文化研修生 GU SISI 顧思思

今回の農家民泊では、自然農の豆太の皆様にお世話になり、楽しく忘れられない2日間を送れました。今年は秋田県でクマの目撃が多かったので、農家さんがみんなの安全を考えて、室内でできる農作業や自分でカレーライスを作るイベントを手配してくれました。また、おじさんとおばさんが太鼓をたたくことも教えてくれて、みんなその過程を楽しみました。日本の伝統楽器を体験できることを大切にして感謝しています。

集合場所に向かう途中、日本一深い湖である田沢湖のそばを通ったのですが、湖面はとても青く澄んでいて、湖の周りには山や森があり、初秋の紅葉が湖面に映えていました。湖のほとりに立って眺めるだけで、私はすでに心の平和を感じていました。おばちゃんが私たちとのおしゃべりで言ったように、「よく生きて、人生をゆっくり楽しもう」 私たちは皆、この言葉に感動したし、この活動の意味もそこにあると思います。

留学生スキー合宿

2024年1月27日（土）～28日（日）に東成瀬村ジュネス栗駒スキー場にてスキー合宿を行いました。留学生18名が地元インストラクターからスキー技術を学んだほか、地元企業で働く若者との雪遊びや餅つき等、雪国ならではの体験や地域交流を楽しみました。

特別聴講学生 Yuval Oshri ユヴァル オシュリ

I would like to share with you my experience of the ski camp at “Higashinaruse Village” that I took part in.

On Saturday morning we gathered at the university and set off. In the noon we arrived at the hotel where the rooms were decorated in a traditional Japanese style with amazing view of the ski resort. For the rest of the day we did activities in the snow, took a dip in the onsen and ate a delicious Japanese dinner.

The next morning, we met our ski instructors and started training in which the instructors taught us how to slide, turn and stop. During the lunch break we participated in a very fun activity of making mochi, which we later ate for lunch. After it, we got on the cable cars towards the top of the mountain to slide on the ski slopes. At first I was a little afraid, but very quickly the fear passed away and was replaced by excitement and joy. In the afternoon we said goodbye to the guides and thanked everyone who took part in creating this amazing experience. We returned happy and fulfilled from this fun weekend at the ski camp.



↑筆者右



秋田地域留学生等交流推進会議

2023年12月14日（木）に秋田地域留学生等交流推進会議が開催されました。本会議は秋田大学国際課に事務局をおき、秋田県内の高等教育機関・地方公共団体・経済団体及び国際交流団体等26機関を構成員としており、年1回、外国人留学生の受入れ促進に関する行儀を行っています。当日は11機関が出席し、秋田県内での国際交流状況について意見交換を行いました。また、会議の懇親会には留学生25名が参加し、会議委員が留学生との懇談を通じて実情を把握したほか、所属大学・高専の垣根を越えた交流を行いました。



国際交流イベント「LET'S MEET UP! -多言語で話そう-」

2024年1月19日（金）に「LET'S MEET UP! -多言語で話そう-」が開催されました。参加学生による感想を紹介します。本イベントは、日本語または様々な言語によってコミュニケーションをするイベントです。次回開催の際にはa・netにて告知しますので、ぜひご参加ください。

特別聴講学生 Clare Miller クレア ミラー

My name is Clare Miller, an international exchange student from Minnesota, USA. Let's Meet Up has been a delightful event to meet new people at Akita University, beyond just those from my classes. It has been a fun time with plenty of new interactions, and I am very thankful for the opportunity to participate multiple times. I think my strongest memory from the event is being able to laugh and have fun with others, breaking past the language barrier even though I do not know much Japanese. I only wish it lasted longer each session.



令和5年度第2回海外留学説明会

2023年11月17日（金）に海外留学説明会を対面・オンライン併用で開催し、10名の学生が参加しました。本説明会では、海外留学を考えている本学の学生が今後1～2年先を見据えた留学計画を立てられるよう、情報提供（秋田大学留学制度、トビタテ！留学JAPAN制度、イングリッシュ・マラソン）を行ったほか、留学経験のある学生及び留学中の学生による体験談の発表や座談会を実施しました。



令和5年度 秋田大学全学FD・SDワークショップを開催

2023年9月28日（木）に令和5年度秋田大学全学FD・SDワークショップ「秋田大学のブランド力を考える（Part2）」を開催しました。今年度は、令和元年度以来の対面での開催となりました。

今年度のワークショップは、昨年度の結果を踏まえて、教員・職員・学生が共通認識で持てる「秋田大学ブランド」の具体的な要素を考え、イメージ定着のための効果的な実施方策を考えることを目的として開催されました。

当日は、本学教員・職員・学生51名が参加し、山本文雄学長による基調講話や播磨屋寿敏監事による講演（テーマ：「秋田大学のブランディング・差別化戦略～秋田大学の魅力」）、グループディスカッションを通して、各学部のブランドとは何か、また、各学部のブランドを向上・拡散するための方策とは何かを検討し、グループ発表を行いました。教員・職員・学生が、自身の所属学部に加え、その他の学部の良さについても再確認する良い機会となりました。

グループ発表の資料等をまとめた報告書をAU-CIS「電子書庫（総合学務課）」及びWebClass「（学生向け）公開ファイル」で公開していますのでご覧ください。



専任教員からひとこと

「言語を超えたコミュニケーション：メタファーの力」

高等教育グローバルセンター 国際交流部門 袁 曉犇 助教

私はどの言語にも存在するメタファーを研究しています。メタファーは単なる修辞技法ではなく、私たちの思考やコミュニケーションに深く根ざしています。

例えば、「時間は金なり」という表現は、世界中の多くの言語で見られます。これは時間の貴重さを、より具体的で理解しやすい「金」という概念に置き換えることで、意味の理解を促進します。

異文化間でのコミュニケーションでは、言語の壁が大きな障害になりがちですが、メタファーを用いることで、この壁を越える手助けをすることができるのではないかと考えます。

そして、メタファーは異なる文化や言語背景を持つ人々にも共通の感覚や経験を訴えかける力があります。たとえ直訳が難しくても、メタファーを通じて共有されるイメージや感情は、言葉の意味を超えて伝わる場合があります。言語を超えたコミュニケーションの手段としてのメタファーは、私たちが異文化間でより深い理解を築くための強力なツールです。

このメタファーの力をさらに探求し、異文化間コミュニケーションの架け橋としての可能性を広げていくことを目指したいと思います。

秋田大学 国際交流関連データ

■国際交流協定校数（2024年2月1日現在）
 大学間協定（35か国・地域76大学等）
 部局間協定（23か国・地域40学部等）

■留学生数（2023年10月1日現在）
 学部生 104名
 大学院生 123名
 交換留学生・研究生等 50名
 合計 277名



2023年9月～2024年3月 実施 高等教育グローバルセンター国際交流部門事業

時期	事業名
2023/10/20, 11/6, 11/24, 12/8, 12/18 2024/1/19	LET'S MEET UP! －多言語で話そう－
2023/10/21-22	第三の故郷を見つける農家民泊 2023
2023/11/17	令和5年度第2回海外留学説明会
2023/12/14	秋田地域留学生等交流推進会議
2024/1/27-28	スキー合宿
2024/2/14	令和5年度後期 特別聴講学生送別セレモニー

編集・発行：国立大学法人 秋田大学 高等教育グローバルセンター

連絡先：国際課（国際交流部門事務担当）

TEL：018-889-2870 E-MAIL：kokusai@jimu.akita-u.ac.jp

総合学務課（教育活動部門・教育開発部門事務担当）

TEL：018-889-3192 E-MAIL：kyomusom@jimu.akita-u.ac.jp